

第12回 男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

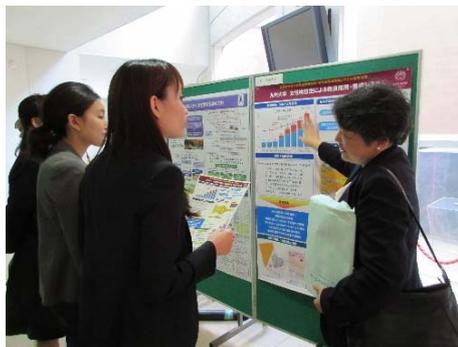
「女性研究者・技術者を育む土壌 ～連携・融合による支援をめざして～」参加報告

研究戦略企画室 上瀧恵里子

平成26年10月4日(土)、東京大学駒場キャンパスで開催された標記シンポジウムに出席した。平成18年から数えて今回で8回目の参加となる。今回は日本数学会が幹事学会である。

午前中は分科会A「女性技術者の働き方―意識・組織・制度―」と、分科会B「同居支援への支援案の摸索」が開催され、分科会Bに参加した。ポスドクなどの任期付研究員の出産・育児に関する制度がほとんど整っていない現状が紹介された。また同居支援とは少し異なるが、岩手大学の両住まい手当は今年から女性教員だけでなく、男性教員や職員にも範囲を広げ、好評であるということであった。この分科会には文部科学省の担当課からも数名の参加があり、若手のポスドクの方の生の声がなんとか届いたのではないかと思う。

昼食時間帯を利用したポスターセッションでは、文部科学省人材育成費補助金の『女性研究者養成システム改革加速事業』における本学の取り組み「女性枠設定による教員採用・養成システム」について70分の時間内に10数名の方に説明できた。補助金事業採択機関では珍しいことではなくなってきたが、それ以外の学会関係者が集まる本シンポジウムでは、多くの大学・研究機関で女性限定公募が既に実施されていることを知らない人も少なくなかった。九州大学の優秀な女性を採用する取り組みは、説明を聞いていただいた多くの方に興味を持って頂いた。



ポスター発表の様子

午後の全体会議では、板東久美子消費者庁長官が特別講演「女性研究者・技術者の一層の活躍に向けて」の中で、スーパーグローバル創生事業で、女性の活躍促進策や数値目標も審査項目として検討されたことを紹介された。申請書からピックアップされた採択13大学の10年後の女性研究者の数値目標が紹介されたが、各大学とも20～30%と高めに設定されていることに少々驚いた。

その後のパネル討論「男女共同参画学協会連絡会の要望書の具現化に向けて」では、日本数学会の宮岡礼子先生の「出産は女性にしかできない素晴らしい経験である。迷っている方は是非生みましょう。」という呼びかけが多くを女性を勇気づけるものと感じた。そのためにもインフラ整備が急務である。また会場からの「リーダーになるために必要なことは？」の質問に「2つ上のポジションにいるつもりで物事を考える。鳥の目、虫の目、魚の目を持つこと。」という板東長官のお話が印象的であり、是非多くの方に紹介したいと思った。

都合により、ここまでで会場を後にしたが、女性研究者支援や活躍促進に資する多くの情報や知見を得ることができた。

以上